

2) 認定こども園の施設の機能、規模（定員等）等の想定

① 「今帰仁村子ども・子育て支援事業計画」における認定こども園の定員

「今帰仁村子ども・子育て支援事業計画」では、認定こども園について平成30年度の新設を検討することとしており、既存の3公立幼稚園（兼次幼稚園、今帰仁幼稚園、天底幼稚園）の統合及び仲尾次保育所・中央保育所の閉園後の保育ニーズの一部受け入れを想定し、0～5歳児を対象に172名を受け入れることを計画している。

その内訳としては、既存の3公立幼稚園統合により全教育ニーズの受け皿を担うことから、教育ニーズ分（1号認定及び2号認定の教育ニーズ分）が106名となっており、保育ニーズ分（2号認定の保育ニーズ分及び3号認定）については66名を想定している。

② 認定こども園の定員の検証

「今帰仁村子ども・子育て支援事業計画」では、就学前児童数の将来推計をもとに、アンケートから導かれた教育・保育ニーズを掛け合わせることで“教育・保育事業の量の見込み”を算出し、目標年度までにニーズに応じた受け皿確保を図っていくことを基本としている。

量の見込みについては、国から示されたマニュアルに準じて算出することが求められており、村民アンケートをもとに保護者の就労形態や施設利用の状況、施設利用希望より教育・保育ニーズの抽出を行っている。しかしながら、保育料などは考慮せずに保護者のニーズを全て吸い上げる形の抽出方法となっており、過大なニーズとなっている可能性も危惧されていた所となっている。

平成27年4月より、子ども・子育て支援新制度に移行しているが、そうした中で“量の見込み”と“認定区分ごとの実際の認定者”との乖離の状況を見ると、以下の様になっている。

■平成27年度の量の見込みと実際の認定者数

認定区分	1号	2号		3号		計
		教育ニーズ	保育ニーズ	2・1歳	0歳	
量の見込み (A)	116		363			479
	35	81	177	145	41	
実際の認定者数 (B)	99		332			431
			151	125	36	
乖離の状況 (B-A)	▲17		▲31			▲48
			▲26	0	▲5	

※実際の認定者数については、平成27年8月1日現在。

結果、全体としては、量の見込みに対して実際の認定者数は48名下回っており、内訳をみると、教育ニーズ（1号認定及び2号認定の教育ニーズ分）で17名、保育ニーズ分（2号認定の保育ニーズ分及び3号認定）で31名、量の見込みに対して実際の認定者数が少ない状況となっている。

また、量の見込みに基づいて設定された確保方策と実際の入所・入園状況を比較すると以下の様になっている。

■平成 27 年度の確保方策と実際の利用者数

	確保方策		実際の利用者数		利用者の乖離 の状況
	箇所	名	箇所	名	
公立保育所	4 箇所	280 名	4 箇所	320 名	40 名
公立幼稚園	3 箇所	110 名	3 箇所	99 名	▲11 名
認可外保育施設	1 箇所	35 名	1 箇所	21 名	▲14 名
計	8 箇所	425 名	1 箇所	440 名	▲15 名

公立保育所の利用者数については、定員の弾力化（平成 29 年度までは定員の弾力化が認められている）の影響もあり、確保方策で設定した値を 40 名上回っている。また、公立幼稚園、認可外保育施設ではそれぞれ 11 名、14 名下回っている。

「今帰仁村子ども・子育て支援事業計画」においては、教育・保育施設の整備は段階的に進められていくこととなっており、平成 27 年度時点で“量の見込み”に対する“確保方策”が 54 名分不足することが想定されていたが、実際は弾力化制度の運用により 16 名分の受け皿不足にとどまっている。

認定こども園も含めた新たな施設整備の検討に際しては、こうした状況も勘案しつつ適切な施設規模を検討していく必要がある。（特に、教育ニーズ分の乖離の状況は認定こども園の定員に直結してくることから、場合によっては下方修正も含めて定員数を検討していく必要がある。なお、認定申請に際し、今帰仁村で複数年保育を実施しているのであれば 3・4 歳から幼稚園に就園させたいという保護者も少なからずみられる。また、年度末に向けて 0 歳児の保育ニーズが増えてくることになるが、定員数の再検討を行う場合には、それらを加味するかどうかも含めて検討が必要と思われる。）

③ 施設規模等の想定

認定こども園の定員数については前述した様に下方修正を含めて検証を深めていく必要があるが、仮に「今帰仁村子ども・子育て支援事業計画」の設定を踏まえ、最大 172 名の受け皿確保を図っていくことを念頭に置いた場合、今帰仁保育所（定員 90 名）の 2 倍程度の規模となることが想定される。

なお、今帰仁保育所は敷地面積 2,410 m²、建築面積 903.4 m²、延べ床面積 807.1 m²となっているが、2 倍規模の敷地を確保することは困難な状況も想定される。したがって、園庭を確保するため 2 階建てを前提に検討していくとともに、敷地面積については今帰仁保育所の敷地規模以上を目指していくものとする。

以下、施設規模等について、関係法令等に基づいた整理を行うものとする。

ア. 前提となる年齢別定員数の設定（仮）

<利用定員>

定員については、「今帰仁村子ども・子育て支援事業計画」における確保方策検討の際の想定を参考に、0～5 歳児の定員数を以下の様に仮定する。

※「今帰仁村子ども・子育て支援事業計画」における確保方策検討にあたっては、各施設の年齢別定員は詳細に検討されていない。そのため、現段階ではあくまで仮定値であり、認定こども園の定員数の検証結果も含め、村全体の受け皿における年齢別定員設定を検証した上で設定していくものとする。

■ 幼保連携型認定こども園における年齢別定員の想定（仮）

年齢別	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
定員数	12 名	16 名	18 名	20 名	52 名	54 名	172 名

保育ニーズ：66 名

教育ニーズ：106 名

<学級編成>

学級編成については、幼保連携型認定こども園の運営基準に準じて学級編成を整理する必要がある。

■ 学級編成の想定（仮）

学級編成		定員
年齢	学級数	
0 歳児	1	12 名
1 歳児	1	16 名
2 歳児	1	18 名
3 歳児	1	20 名
4 歳児	2	52 名
		26 名
5 歳児	2	54 名
		27 名
計	8	172 名

※運営基準：

- ・満 3 歳以上の園児については、教育課程に基づく教育を行うため、学級を編成する。
- ・1 学級の園児数は、35 名以下を原則とする。
- ・学級は、学年の初めの日の前日において同じ年齢にある園児で編成することを原則とする。

イ. 施設の面積基準等

法令等に基づき、利用定員等による面積基準を以下の通り整理する。

なお、ここでの設定はあくまで前述した仮定値に基づくものであり、今後変更が生じる可能性があるとともに、参考値として利用定員等に基づく最低基準を示すものである。

【園舎の面積】

面積基準（下記①と②の合計面積）	1,297.52 m ² 以上
------------------	----------------------------

①学級数に応じた面積

学級数	8学級
面積基準※	$320 + 100 \times (8 - 2) = 920 \text{ m}^2$ 以上

※2学級以上の場合の面積基準： $320 + 100 \times (8 - 2)$

②園児数に応じた面積

乳児室 (0歳児室)	人数	12名
	面積基準	$12 \times 3.3 = 39.6 \text{ m}^2$ 以上
ほふく室 (1歳児室)	人数	16名
	面積基準	$16 \times 3.3 = 52.8 \text{ m}^2$ 以上
保育室 (2～5歳児室)	人数	144名
	面積基準	$144 \times 1.98 = 285.12 \text{ m}^2$ 以上
計	人数	172名
	面積基準	377.52 m ² 以上

【遊戯室の面積】

利用人数	106名（3歳以上児想定）
面積基準	$106 \times 1.98 = 209.88 \text{ m}^2$ 以上

【園庭（屋外遊技場）の面積】

面積基準（下記①と②の合計面積）	859.4 m ² 以上
------------------	-------------------------

①学級数等に応じた面積

学級数 ※3学級以上の場合	学級数	8学級
	面積基準	$400 + 80 \times (8 - 3) = 800 \text{ m}^2$ 以上
園児数 ※満3歳児以上	人数	106名
	面積基準	$106 \times 3.3 = 349.8 \text{ m}^2$ 以上
いずれか大きい方		800 m ² 以上

②園児数に応じた面積

園児数 ※満2歳児	人数	18名
	面積基準	$18 \times 3.3 = 59.4 \text{ m}^2$ 以上

3) 認定こども園及び民設民営保育所整備候補地の選定

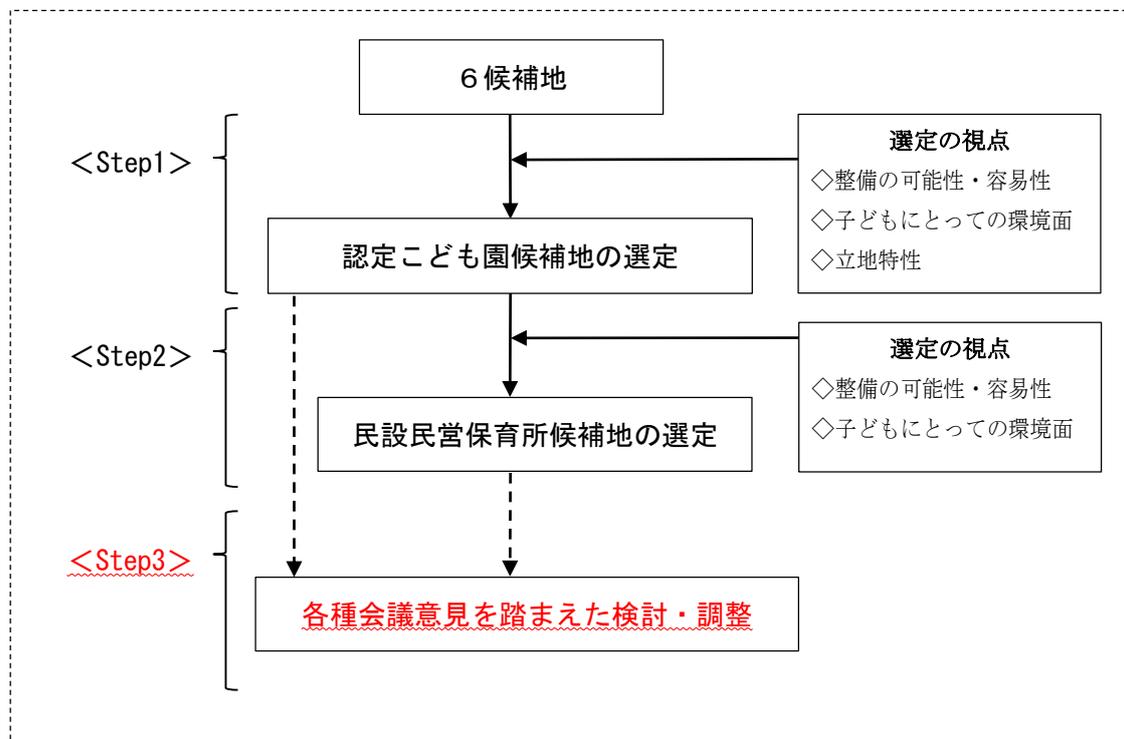
①候補地選定の考え方

まとまった用地の確保のしやすさ等より、以下の6地域が候補地としてあがっている。

■ 候補地一覧

候補地		備考
候補地① 今帰仁小周辺	①-1 今帰仁幼稚園跡地及び隣接地	
	①-2 今帰仁小北側隣接地	
候補地② 兼次小周辺	②-1 兼次幼稚園敷地及び隣接地	
	②-2 旧兼次中学校跡地	旧兼次中グラウンドの一部
候補地③ 天底小周辺	③-1 天底幼稚園敷地及び隣接地	
	③-2 校長住宅跡地及び周辺地	現天底小敷地の一部

なお、認定こども園、民設民営保育所整備の候補地選定にあたっては、以下の流れで考えていくものとする。



<Step 1 : 認定こども園整備の候補地選定>

上記6候補地の中から保・幼・小連携を考慮し小学校に近い土地、早期の整備（土地の確保・着工）が可能な土地等の条件を勘案し、候補地を選定していくものとする。

■ 候補地選定の視点

◇ 整備の可能性・容易性

- 敷地規模 : 想定される施設規模を確保できる敷地規模（今帰仁保育所敷地面積以上か否か）
- 土地確保の容易性 : 土地の所有状況（公有地か私有地か）
- 土地利用現況・規制等 : 土地の利用状況および法規制、地形等による整備の容易性、課題の有無
- その他整備面での考慮事項 : 現施設の仮移転等の必要性の有無、その他整備を図る上で考慮すべき事項の有無

◇ 子どもにとっての環境面

- 安全性（交通量等） : 周辺道路の交通量、歩道設置の必要性の有無
- 周辺環境（施設、騒音等） : 道路交通騒音の状況、周辺施設との関係
- 小学校との連携等 : 小学校校舎との距離等による相互の配慮事項の有無

◇ 立地特性

- 地域バランス : 整備位置による子どもや保護者の移動等の利便性

候補地①	今帰仁小周辺		
-------------	---------------	--	--

候補地①-1	今帰仁幼稚園跡地及び隣接地	面積	約 4,600 m ²
土地利用現況	・学校用地 ・農地 ・原野	土地利用規制	—
土地所有状況	民有地：約 1,000 m ² (約 22%) 公有地：約 3,600 m ² (約 78%)		

候補地①-2	今帰仁小北側隣接地	面積	約 1,800 m ²
土地利用現況	・学校用地	土地利用規制	—
土地所有状況	民有地：0 m ² (0.0%) 公有地：約 1,800 m ² (100.0%)		



候補地② 兼次小周辺

候補地②-1	兼次幼稚園敷地及び隣接地	面積	約 2,600 m ²
土地利用現況	・ 学校用地 ・ 原野 ・ 宅地	土地利用規制	—
土地所有状況	民有地：660 m ² (約 25%) 公有地：約 2,000 m ² (約 75%)		
候補地②-2	旧兼次中学校跡地	面積	約 2,400 m ²
土地利用現況	・ 学校用地 (旧兼次中グラウンド)	土地利用規制	—
土地所有状況	民有地：0 m ² (0.0%) 公有地：約 2,400 m ² (100.0%)		



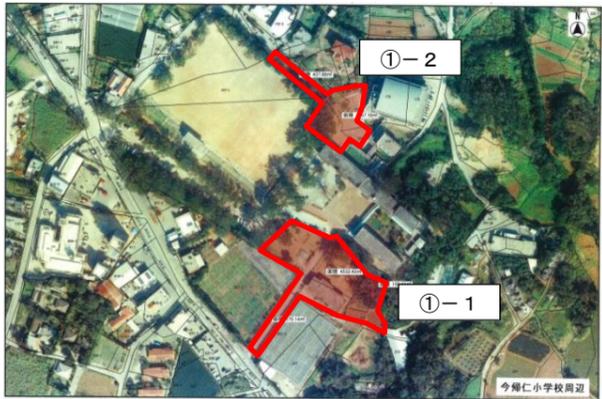
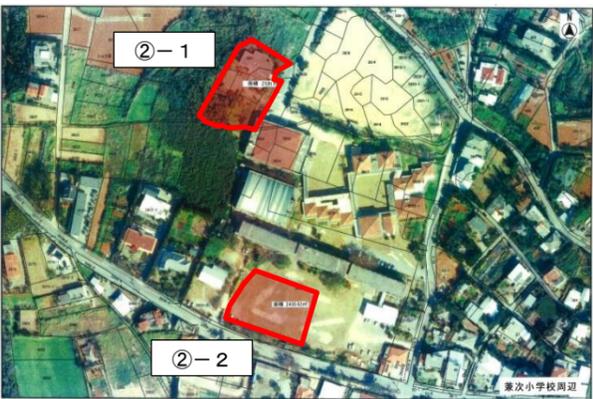
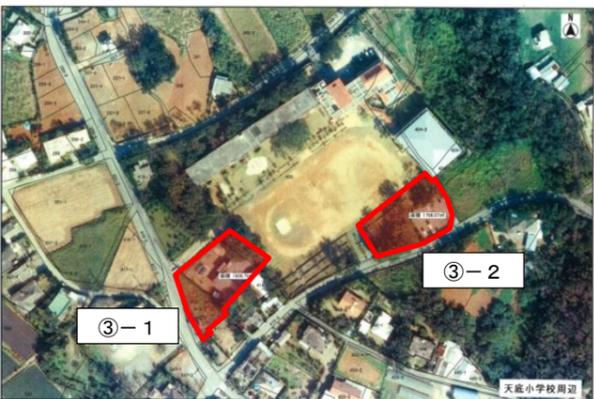
候補地③ 天底小周辺

候補地③-1	天底幼稚園敷地及び隣接地	面積	約 1,900 m ²
土地利用現況	・ 学校用地 ・ 農地	土地利用規制	—
土地所有状況	民有地：約 500 m ² (約 26%) 公有地：約 1,400 m ² (約 74%)		
候補地③-2	校長住宅跡地及び周辺地	面積	約 1,700 m ²
土地利用現況	・ 学校用地	土地利用規制	—
土地所有状況	民有地：0 m ² (0.0%) 公有地：1,700 m ² (100.0%)		



イ. 選定の視点に基づく各候補地の評価

■ 各候補地の評価

候補地		候補地① 今帰仁小周辺		候補地② 兼次小周辺		候補地③ 天底小周辺	
							
選定の視点		①-1 今帰仁幼稚園跡地及び隣接地	①-2 今帰仁小北側隣接地	②-1 兼次幼稚園敷地及び隣接地	②-2 旧兼次中学校跡地	③-1 天底幼稚園敷地及び隣接地	③-2 校長住宅跡地及び周辺地
整備の 可能性 ・容易性	敷地規模	約4,600㎡ ◎：ゆとりある面積を確保可能。	約1,800㎡ △：確保可能面積が小さく、これ以上の用地確保も困難。	約2,600㎡ ○：現状の今帰仁保育所と同程度。	約2,400㎡ ○：現状の今帰仁保育所と同程度。	約1,900㎡ △：確保可能面積が小さく、これ以上の用地確保も困難。	約1,700㎡ △：確保可能面積が小さいが、隣接地(農用地)購入の可能性有。
	土地確保の容易性	△：2割強が民有地。	○：全て村有地。	△：3割弱が民有地。	○：全て村有地。	△：3割弱が民有地。	○：全て村有地。
	土地利用現況・規制等	△：購入予定の民有地と高低差があり造成が必要。	△：一部小学校グラウンドの敷地を利用することになる。	△：学校敷地面と高低差がある。	○：旧中学校グラウンドで、造成の必要がない。	△：民有地部分は農地。	△：現天底小の敷地で、一部駐車場として利用。高低差があり、造成の必要がある。
	その他整備面での考慮事項	△：幼稚園の仮移設施設が必要。	○：現施設を活用しながら新築整備ができる。 △：通園等を考慮すると敷地周辺の道路整備が必要。 △：園庭、駐車場の確保が必要。	△：幼稚園の仮移設施設が必要。	○：現施設を活用しながら新築整備ができる。	△：幼稚園の仮移設施設が必要。 △：1,900㎡以上の用地確保は難しい。	○：現施設を活用しながら新築整備ができる。
評価		○	△	△	○	△	△
子ども にとっての 環境面	安全性 (交通、災害等)	◎：敷地内で進入路の拡大、歩道の設置が可能。	△：民有地を確保して校門・進入路の設置・拡大、歩道の設置が必要となる。	△：通園路の拡大、歩道の確保が必要。	○：旧兼次中学校敷地内であり、安全性は良好。	△：比較的広幅員の道路に面し、送迎の際の交通量等の面で配慮が必要。	○：接する道路は比較的交通量が少なく、安全性は良好。
	周辺環境 (施設、騒音等)	○：良好。	○：良好。	○：良好。	△：壁で仕切られているが、国道に面しているため、騒音等が懸念される。 ◎：高齢者施設や村営住宅(整備予定)に隣接し、世代間交流等が期待できる。	○：良好。	○：良好。
	小学校との連携等	○：小学校校舎と適度な距離があり、互いの活動内容・時間等の面での影響が少ない。	△：小学校校舎と近接し、小学生の授業への影響が懸念されるなど、互いの活動内容・時間等の面で配慮が必要となる。	○：小学校校舎と適度な距離があり、互いの活動内容・時間等の面での影響が少ない。	○：小学校校舎と適度な距離があり、互いの活動内容・時間等の面での影響が少ない。	○：小学校校舎と適度な距離があり、互いの活動内容・時間等の面での影響が少ない。	○：小学校校舎と適度な距離があり、互いの活動内容・時間等の面での影響が少ない。
評価		◎	△	△	○	△	○
立地 特性	地域バランス	◎：村域のほぼ中央に位置し、候補地の中で最も利便性に優れる。		△：村域の西端に位置し、村東部地域から距離がある。		△：村域の東部に位置し、村西部地域から距離がある。	
	評価	◎		△		△	
総合評価		◎	△	△	○	△	○

検討の結果、「候補地①—1（今帰仁小周辺：今帰仁幼稚園跡地及び隣接地）」を認定こども園の最有力候補地（案）として選定していくものとする。

<Step 2：民設民営保育所整備の候補地選定>

民設民営保育所整備の候補地は、「整備の可能性・容易性」「子どもにとっての環境面」の視点で選定を行う。

前述の検討結果より、村域西側に立地する「候補地②—2（兼次小周辺：旧兼次中学校跡地）」と村域東側に立地する「候補地③—2（天底小周辺：校長住宅跡地及び周辺地）」を最有力候補地（案）として選定していくものとする。

<Step 3：各種会議意見を踏まえた検討・調整>

上述した認定こども園の最有力候補地（案）及び民設民営保育所整備の候補地（案）について、子ども・子育て会議幼保連携部会や策定委員会、現場職員による学習会より寄せられた意見を勘案し、検討・調整を行った。

調整結果は以下の通りであり、この案を基に、用地の確保や施設計画の検討、公募手続き等を図っていくものとする。

○認定こども園：

⇒「候補地①—1（今帰仁小周辺：今帰仁幼稚園跡地及び隣接地）」をベースとしつつ、園庭の充実等を図るため可能な限り敷地を広く確保していくものとする。

○民設民営保育所：

⇒村域東側については、「候補地③—2（天底小周辺：校長住宅跡地及び周辺地）」として公募を行っていくものとする。

⇒村域西側については、上述した「候補地②—2（兼次小周辺：旧兼次中学校跡地）」に加え、自然環境に恵まれた「候補地②—1（兼次幼稚園敷地及び隣接地）」についても候補地とし、公募を行った上で事業者側が選択を行うものとする。

※ただし、「候補地②—1（兼次幼稚園敷地及び隣接地）」については、現幼稚園の仮移転が必要となり、仮設園舎の整備が必要となるが、公平性の観点から仮移転に係る費用は事業者負担としていくものとする。

(5) 認定こども園整備に係る職員ワークショップ結果の整理（中間報告）

<開催概要>

認定こども園の整備にあたり、現場の保育士・幼稚園教諭の生の声を聴き、計画内容への反映を図るためにワークショップを行った。

■開催概要

	日時	場所	内容
第1回	平成27年9月29日（火） 19:00～21:00	今帰仁保育所	現保育所・幼稚園の良い面・悪い面について話し合うとともに、新たな施設に望む事柄を検討する（施設に関すること、教育・保育のプログラム）
第2回 （予定）	平成27年11月上旬～中旬	〃	施設イメージのたたき台をもとにした意見交換（その1）
第3回 （予定）	平成27年11月下旬	〃	施設イメージのたたき台をもとにした意見交換（その2）

■ワークショップの様子

<第1回>



第1回ワークショップ：趣旨及び進め方説明



会場の全体風景（2つのグループでグループワークを実施）



意見の書き出し・グルーピング



意見発表（第1グループ）



意見を皆で聞き、共有



意見発表（第2グループ）

<意見の内容>

第1回グループワークでは、主に以下のような意見が寄せられた。

○施設整備について

- ・年齢ごとの活動に配慮した室構成・園庭づくり（0・1・2歳児、3・4・5歳児の緩やかな区分け）
- ・異年齢児の交流を育み多様な活動を支えるホール空間の整備
- ・収納スペースの充実や可動式間仕切りなど、使い勝手に配慮した保育室の整備
- ・日当たりや風通しの良い施設づくり
- ・子どもの高さへの配慮（窓・塀・足洗い場等）
- ・トイレの充実（洋式トイレの設置、保育室への職員用トイレ設置、園庭に面した戸外トイレ等）
- ・調理スペースの充実
- ・職員室・会議スペースの充実
- ・安全への配慮、見通しの良い空間構成（施設内、園庭、駐車場の見通し等）
- ・思いっきり遊べる園庭づくり（木陰があり自然と触れ合うことのできる園庭整備、固定遊具や土山の整備）

○送迎・駐車場について

- ・職員や保護者用駐車場の整備、送迎動線への配慮
- ・登園時の混雑に対応できる広い玄関スペースの確保

○プログラムについて

- ・保育と教育の連携によるプログラムの充実
- ・小学校や地域との連携・交流を育む環境面の工夫・プログラムの充実
- ・畑の整備と栽培等を通じた食育の充実

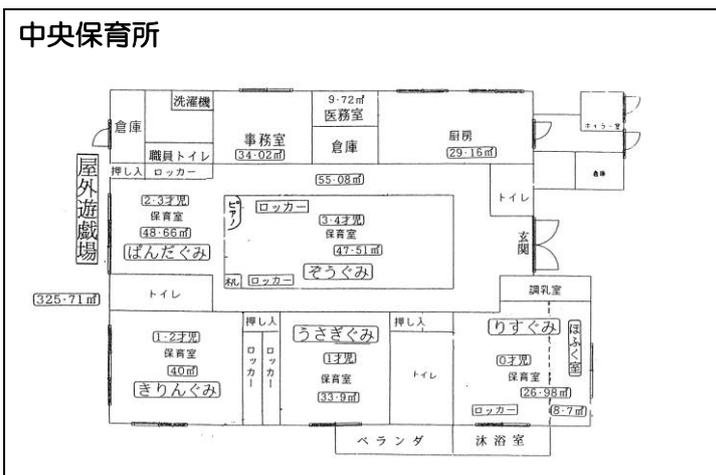
○職員配置について

- ・職員配置の充実（フリー保育士、看護師、用務員の配置）

次ページ以降に各グループの意見交換結果の詳細を整理する。

第1グループ

その1：現保育所・幼稚園の良い点・問題点について



<園庭について>

【良い点】
砂場が前(正門前)と園庭にあり良い

【良い点】
園庭に大きな木があり木陰で遊べる

<園舎について>

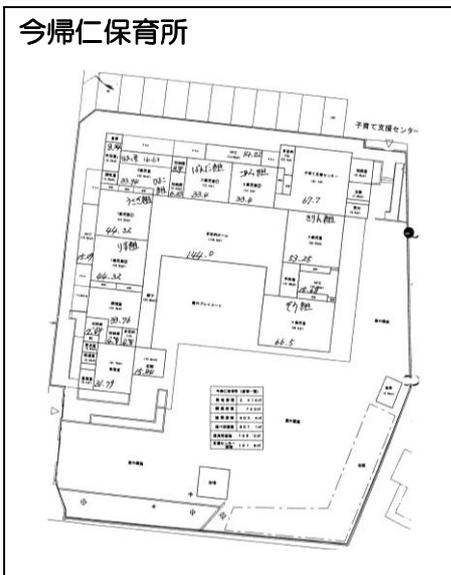
【悪い点】
各クラスに大人用のトイレがない

【悪い点】
ホールが保育室になっているので壁がなく落ち着かない

【悪い点】
遊ぶ場所が正門前と裏門の園庭にあり見通しが悪い

【悪い点】
園庭が狭い

【悪い点】
壁が高く、子どもの目の高さで外を見られない(1歳児クラス)



<園舎について>

【良い点】
コの字型の造りなので園舎中央にあるホールへ出やすい

【良い点】
ホールスペースがあり良い

【良い点】
保育室が明るくて良い

【良い点】
バリアフリーが良い

【良い点】
空調設備(クーラー)が付いていて沖縄の暑い時期に子どもが快適に過ごせる

【良い点】
多目的ホールがあって使い方も工夫して楽しく保育ができる

【良い点】
社協との隣接でお年寄りの交流が身近にできる

【良い点】
大きなホールがあるので世代間交流や地域交流のプログラムができる

【良い点】
収納が多く、おもちゃを選択して出す、片づける等の環境づくりもやりやすい

<園舎・園庭について>

【悪い点】
子どもの目線に合わせた窓の高さ(子どもが保育室から外が見えない)

【悪い点】
玄関の配置が来園者が見えづらく防犯的に危険

【悪い点】
緑や木陰が少ない

第1グループ

その1：現保育所・幼稚園の良い点・問題点について

仲宗根保育所



<園庭について>

【良い点】 園庭に畑がある	
【良い点】 桜の木があり、その下で 花見祭りができる	【良い点】 保育所周辺がみどり豊 かで静かである
【良い点】 木があり夏でも木陰で遊べる	【良い点】 園庭に木陰がある
【良い点】 園庭で手作り遊具(プラ ンコ、小屋、縄のぼり)が できる	【良い点】 運動面での発達に関し て、手作り遊具がたくさ んある

【良い点】
平屋である

<園舎について>

【良い点】
ベランダが広く造られており保育活動に活かされている

【良い点】
調理室が中央にあるので、園児や保護者、職員に自然な形で食育がすすめられている

<その他>

【良い点】
学びあえる仲間で園内学習のあり方がよい

【良い点】
行事や職員の環境面での部活動があり役割分担ができています

【良い点】
わらべ歌遊びを取り入れている

<園舎について>

【悪い点】
台所を修繕しないとイケない

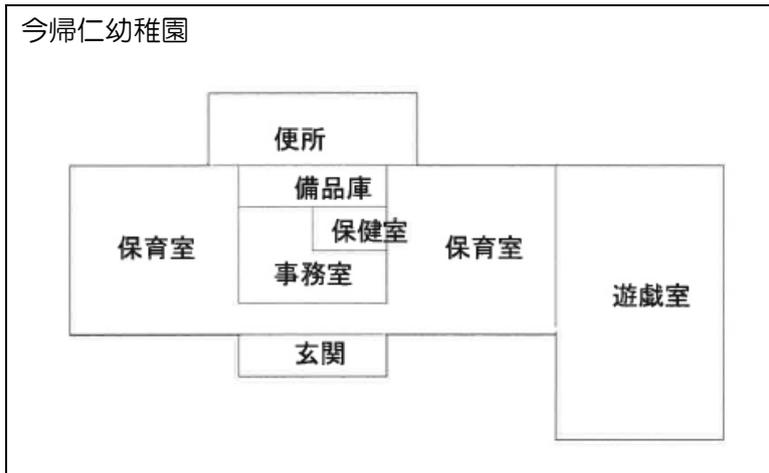
【悪い点】
年齢別の部屋数が足りない

【悪い点】
事務室が狭いため、来賓が来ても廊下での対応が多い

【悪い点】
1歳児保育室が別の棟(プレハブ)で死角がある

第1グループ

その1：現保育所・幼稚園の良い点・問題点について



<園舎について>

【良い点】 ホール（遊戯室）があると便利 ・雨天時に広々と遊べる ・集会、行事等で使用 ・預かり保育で使用	【良い点】 ホールがあるので、小学生との交流が幼稚園でできる	【良い点】 教室から園庭へでられる
		【良い点】 事務室が玄関先にあるので便利

<園庭について>

【良い点】 広い園庭 ・緑豊かな自然環境（蝶やセミ、小動物もいる） ・蝶の食草等の植物	【良い点】 園庭が広く、緑があり自然豊かで斜面がある
	【良い点】 地域散歩（海や山、馬場等）

<園庭について>

【悪い点】 園庭と遊びの場の間に道路があり安全面に問題がある（自動車が通る、または逆走もある）

<園舎について>

【悪い点】 保育室が暑い（事務室のみクーラーが完備されている）	【悪い点】 事務室が狭い
---	------------------------

【悪い点】 子どものロッカーが狭く、使いづらい

【悪い点】 部屋が狭く、机やイスが古く折りたためない	【悪い点】 水道はたくさんあるが、水圧が弱くて使えない
--------------------------------------	---------------------------------------

【悪い点】 子ども用の洋式トイレが1つしかないため増やしてほしい（和式の苦手な幼児がいる）

第1グループ

その2：新たな施設（認定こども園）に望む事柄について（提案や教育・保育の方針等）

園舎・保育室等に関すること

<保育室について>

風通しや陽あたりを考慮して過ごしやすい造り | 園舎は、1階建の平屋にして欲しい

2階建の園舎

・1階：0・1・2歳児

・2階：3・4・5歳児（交流を持ちやすくするため小学校と同じ高さ）

子どもの目線での外が見えるつくり

年齢に合わせた保育室づくり（手洗い場、窓の高さ、トイレの配置）

保育室から園庭が見えるようにしてほしい | 部屋から外が見える高さ（子どもの目の高さ）

見通しの良く、死角のない造り（後で付け足していくと、死角になる部分がある）

0歳児の保育室は、落ち着いた雰囲気環境

0・1・2歳児は家庭的な雰囲気の部屋

3・4・5歳児は個を大切にしながらも集団遊びができる部屋やホール

<収納について>

環境構成、保育が楽しくなるように保育室にたっぷりの収納がほしい（必要範囲）

現在あるものの置き場を検討・確認しながら必要収納を出して完璧に

<ホールについて>

異年齢が交流できるホールがあって欲しい

ホールがあった方がいい（異年齢交流や外部との交流ができる）

<トイレについて>

・園児用のトイレは、洋式と和式

・大人用のトイレは、個室の洋式

各部屋のトイレに大人用のトイレを充実してほしい | 戸外用のトイレの設置

調理専用の更衣室やトイレがある良い | 調理室の隣にトイレがあった方がいい

<クーラーについて>

夏でも快適に過ごせるように全室にクーラーを完備 | 事務所を広くし、クーラーの設置

各年齢の部屋にクーラーの設置 | 夏を快適に過ごすために各クラスにクーラーを設備

<間どいについて>

今後、保護者または地域とのコミュニティは重要な課題になると思う。保護者や地域の方が気軽にまた、行きたくなるような場所（部屋）の雰囲気作りも大切だと思う

食事のスペースと保育室の分離 | 倉庫・教室・休憩室など全部別々につくって欲しい

<事務室について>

来客の対応ができる広々とした事務室 | 来客が把握できる設備（不審者対応）

保健所からのこの間の監査指導内容を踏まえて検討・確認し、整える | 職員の休憩室

<調理室について>

食器洗い機を完備して欲しい | 調理室にオープンレンジが欲しい

調理室は、下処理場と調理場を分けて欲しい | 調理室は、子ども達がいつでも声をかけられる場所

調理室にクーラーやスポットクーラーが必要（食器を冷やすため） | 調理室に手洗い場が欲しい

<関連施設について>

支援センターが必要

第1グループ

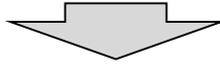
その2：新たな施設（認定こども園）に望む事柄について（提案や教育・保育の方針等）

園庭に関する事柄	<p><園庭の植物について></p> <p>庭に緑がいっぱい虫とりや自然体験ができる環境 畑があるといい</p> <p>自然環境にあるような園庭づくり（木があり、土や山があるなど）</p> <p>庭には斜面があって、緑豊かで畑や花園、虫や蝶などがたくさん集まるようにしてほしい</p> <p>木陰があり、実のなる木があってほしい 緑豊かな自然環境に恵まれた広い園</p> <p>木陰があり夏の暑い日でも園庭で遊べる</p>	
	<p><園庭の環境について></p> <p>3歳未満児が安全かつ思いっきり遊べる園庭の環境</p> <p>乳児と幼児では遊びの内容や動きが違うのでそれぞれが存分に楽しめるようなスペース</p> <p>子どもたちの創造性を刺激するような園庭づくり （体力や運動能力の低下は課題でありその背景は様々にあると思うが、0歳から日中預かるため保育所に責務・役割があると思う）</p>	
	<p>3歳児以上が思いっきり遊べる園庭の環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4～5歳児がしっかり体を動かして遊べるスペース ・0～3歳児までは、ゆったり遊べる庭 ・0～小学生まで遊ぶことができ、交流ができる保育計画ができて欲しい <p>0～5歳児までの施設で、0～2歳児が過ごせる園庭広場・3～5歳児が思いっきり動ける園庭とスペースがあると良い</p>	
	<p><遊具について></p> <p>園庭の遊具の充実と配置の安全性 体をいっぱい動かして遊べる遊具（手造りも含む）</p> <p>園庭には、木陰や遊具がありのびのびと遊べる広さが欲しい</p>	
	<p><隣接する施設について></p> <p>小学校に併設される意味、良さを十分に出せるようにしてほしい （両方で共有できるスペース、小学生にとってもホッとできる場所、公園のような）</p>	
	送迎動線等に関する事柄	<p><駐車場の確保について></p> <p>駐車場の確保</p> <p>職員用と送迎用駐車スペースの確保</p> <p>職員、保護者の送迎時の駐車場の確保</p> <p>送迎用にロータリーや広い駐車場の設置</p> <p>職員と保護者の駐車場の確保</p>
		<p><安全面について></p> <p>保護者の送り迎え時の安全面</p>

第1グループ

その2：新たな施設（認定こども園）に望む事柄について（提案や教育・保育の方針等）

教育・保育プログラム等	<保育の質について>
	お互いが要領・指針を学び合い、協働できる教育環境
	職員が保育に対して心を一つにし、幼稚園教諭と保育士と隔たりなく研修などできること
	園内学習の充実を図り、質の向上
	質の向上のために、職員研修を段階的にやっていく（位置付けていく）
	わらべ歌遊びは続けて取り入れて欲しい
	<小学校との連携について>
	各年齢、小学校との連携（職員間も含む）
	小学校の連携がしっかりとれるよう運動会、学芸会など一緒にできる行事をそのまま続けて欲しい

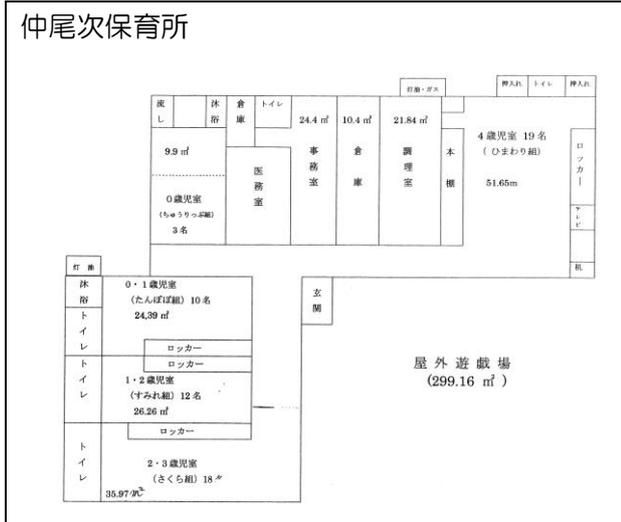


【認定こども園のキャッチフレーズ】

笑顔キラキラ 今帰仁っ子

第2グループ

その1：現保育所・幼稚園の良い点・問題点について



<園庭の植物について>

【良い点】 木陰が多い	【良い点】 一年を通して花が咲き明るい雰囲気
----------------	---------------------------

<食育について>

【良い点】 畑があり、作物の栽培（ゴーヤー等）を通して食育に繋げる	【良い点】 食事の内容、味が充実している
--------------------------------------	-------------------------

<保育環境について>

【良い点】 地域の方に親しまれている	【良い点】 自然に恵まれていて、散歩で動物（牛、ヤギなど）と触れ合うことができる
-----------------------	---

<収納について>

【悪い点】 収納スペースが少ない

<安全面について>

【悪い点】 登園時の駐車スペースがなく、危ない	【悪い点】 車の出入りが大通りと重なり安全とは言えない
----------------------------	--------------------------------

<施設の狭さについて>

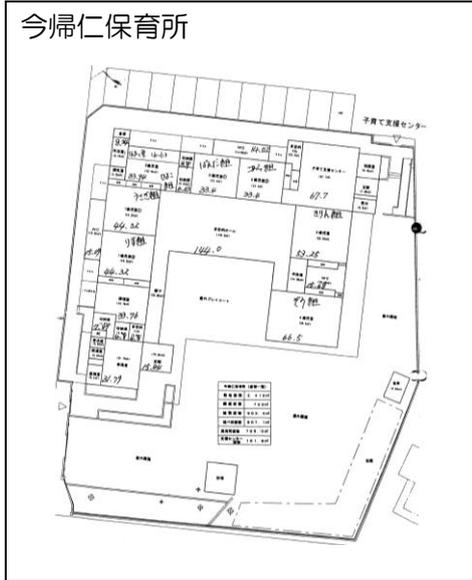
【悪い点】 保育室が狭い	【悪い点】 トイレが狭く便器の数が少ない（4歳児クラス）	【悪い点】 第2避難経路が狭い
-----------------	---------------------------------	--------------------

<その他>

【悪い点】 シャワー室がない	【悪い点】 園庭が砂地のため、倉庫に砂が貯まり掃除が大変である
-------------------	------------------------------------

第2グループ

その1：現保育所・幼稚園の良い点・問題点について



<設備について>

【良い点】
放送設備

【良い点】
立地条件が良い

【良い点】
窓がたくさんあって室内が明るい

【良い点】
水道にシャワーがついていて温度調節ができる

【良い点】
バリアフリーの充実

<駐車場について>

【良い点】
駐車場が広い

【良い点】
駐車場が広い

<その他>

【良い点】
お部屋が清潔であり気持ちがいい

<調理について>

【良い点】
調理室が広く使いやすい

【良い点】
栄養管理ができています

<園庭について>

【良い点】
園庭が広い

【良い点】
園庭が広い

【良い点】
子ども達が興味を持てるような工夫（土や山、トンネル）

【良い点】
園庭が広く遊ぶ環境が良い

【良い点】
広い敷地の園庭には、畑や土の山もあります

<ホールについて>

【良い点】
ホールが広い

【良い点】
大ホールがあり、異年齢交流ができ活用幅が広い

【良い点】
各クラスからホールが見え使用しやすい

【良い点】
広いホールがある

<保育環境について>

【良い点】
近隣施設（社協など）との交流が盛んにできる

【良い点】
散歩するとヤギや牛公民館など、子ども達が楽しめる

【良い点】
子育て支援センターがある

【良い点】
支援センターがあり交流ができる

【良い点】
職員数が多く協力し合える

<部屋の仕組みについて>

【良い点】
移動式の仕切り（壁）で2部屋をオープンにして1部屋にできる

【良い点】
2つの部屋を用途に合わせて使用できる

<収納について>

【良い点】
収納スペースが多い

【良い点】
保育室に収納もあり使いやすい

【良い点】
室内に収納スペースがあり広く使える

<ベランダについて>

【良い点】
ウッドデッキがベランダにあり、0～1歳児が遊べる

【良い点】
各クラスにテラスがある（シャワーも欲しい）

【良い点】
バルコニーがあり気分転換できる

<クーラーについて>

【良い点】
冷房（クーラー）があり昼寝がしやすい環境である

【良い点】
各クラスのエアコン

【良い点】
各部屋にクーラー設備があり子どもたちや大人も快適に過ごせる

<トイレについて>

【良い点】
トイレやシャワーが使いやすい

【良い点】
各部屋に職員トイレがある

【良い点】
ウォシュレット（大人用）がある

【良い点】
各部屋に職員用トイレがある

<事務室について>

【良い点】
事務室が広い

【良い点】
事務室で職員が事務作業できるスペースがある

第2グループ

その1：現保育所・幼稚園の良い点・問題点について

<施設環境について>

【悪い点】
バリアフリーのため、園庭から砂が入ってきやすい

【悪い点】
水場の高さが子どもに会っていない所がある

<水周りの環境について>

【悪い点】
外のシャワー室に砂がたまりやすく、滑りやすい

【悪い点】
水はけがよくなくて滑りやすい所がある

<収納について>

【悪い点】
収納の少なさ

【悪い点】
職員用のロッカーが欲しい

<人員体制について>

【悪い点】
職員数にゆとりが欲しい

【悪い点】
用務員が欲しい

<トイレについて>

【悪い点】
トイレの作り方として排水溝の位置を直してほしい

【悪い点】
トイレの床が水で流せないなので掃除をしても衛生面が気になる

【悪い点】
年長クラスのトイレにある手洗い場が水が垂れてくるため使いづらい

<園庭について>

【悪い点】
地面の土に石が多く、また、乾きすぎてホコリっぽい

【悪い点】
園庭の水道メーター（元栓）の場所

【悪い点】
園庭に木陰が少ない

【悪い点】
園庭に影が欲しい

【悪い点】
日陰がないので夏は暑さをしのぐ所が少ない

<安全面について>

【悪い点】
玄関から奥の部屋までが遠いため、不審者が怖い

【悪い点】
外部からのブラインドが少ない

【悪い点】
安全面の配慮

【悪い点】
門を出るとすぐ道路なので門の閉め忘れがあると危険（子どもの手が届くので門を開けることができる）

<死角について>

【悪い点】
広いのは良いが、死角が多い

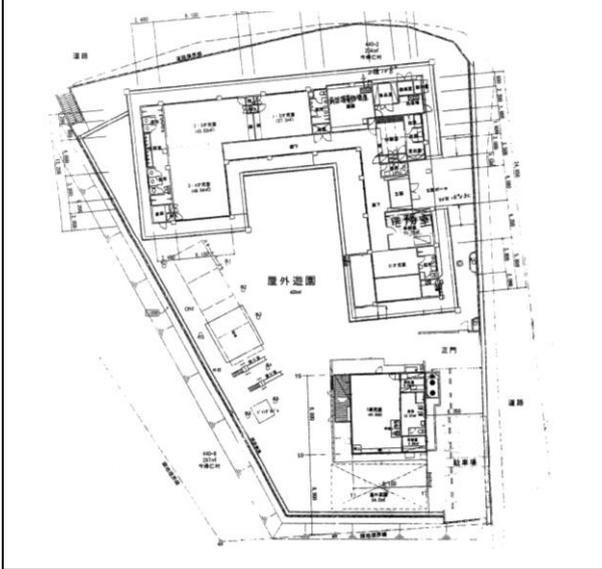
【悪い点】
死角が多い

【悪い点】
園庭の死角が多い

第2グループ

その1：現保育所・幼稚園の良い点・問題点について

仲宗根保育所



<園舎について>

【良い点】

事務室が玄関側にあり、来客に対応しやすい

【良い点】

園舎の造りがコの字型で、どのクラスからも全体が見えるつくりが良い

<園庭について>

【良い点】

園庭が整備されていて子ども達が遊びやすそう

【良い点】

園庭が広々としているため、木陰でゆっくり遊び場や思いっきり走りまわれる場、体を動かして遊ぶ、手作り遊具があり遊びを通して心身ともに育つ環境が良い

<トイレについて>

【悪い点】

外遊びで、子どもがひとりでのトイレが心配なため、外にトイレが欲しい

<施設環境について>

【悪い点】

壁が低かったり、所々に隙間があり、また、造りが登りたくなる造りのため安全面で気になる所がある

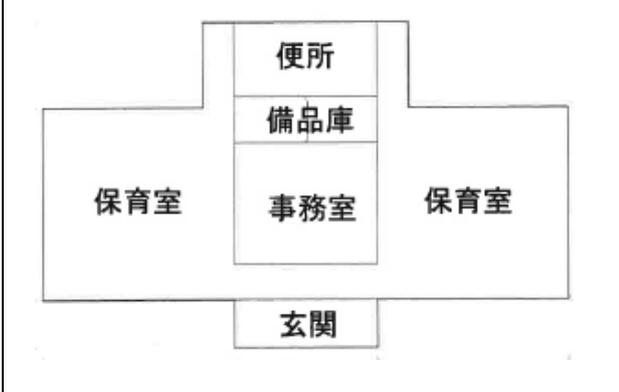
【悪い点】

園舎の裏も自然がいっぱいで良いのだが、死角となってい

【悪い点】

園庭の足洗い場の水はけが悪い

兼次幼稚園



<保育環境について>

【良い点】

自然が多く伸び伸びと遊べる

【良い点】

行事の時などに、小学校が近くにあるため運動場や体育館が利用しやすい

<施設環境について>

【悪い点】

昨年に天井のコンクリートが落ちてきた

【悪い点】

大雨の度に、漏電して停電する

【悪い点】

門が急な坂なため、ほぼ毎年ケガをする子がいる

<保育環境について>

【悪い点】

小学校と離れているため学校の状況が分からないことがある

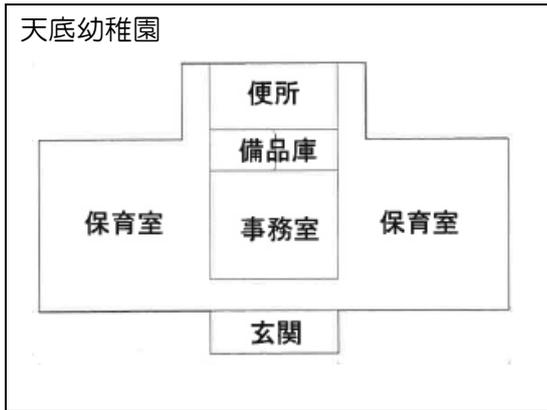
<トイレについて>

【悪い点】

トイレがみんな和式で子どもが洋式に入りたがるため混雑する

第2グループ

その1：現保育所・幼稚園の良い点・問題点について



<施設環境について>

【良い点】
トイレが明るい

【良い点】
玄関が広くて使いやすい

<自然環境について>

【良い点】
自然がいっぱい（生き物が多い）でセミやクワガタ捕りができる

<施設環境について>

【悪い点】
高窓なので風が通りにくい

【悪い点】
死角がある

【悪い点】
シャワースペースがない

【悪い点】
玄関が西向きなので夏は凄く暑い

【悪い点】
避難経路がない（非常口がない）

現施設以外（園庭・送迎動線等）および各施設共通の事柄

<安全面について>

【悪い点】
セキュリティー面（防犯カメラ等がない）

<ホールについて>

【悪い点】
ホールが狭くお遊戯会などで保護者が多くなり子どもが見えないことがある

<駐車場について>

【悪い点】
保護者用の駐車場（駐車スペース）が無く、送迎時の安全面が気になる

【悪い点】
車の駐車スペースが狭くて遠い

第2グループ

その1：現保育所・幼稚園の良い点・問題点について

園舎・保育室等に関する事

<安全面について>

非常口が欲しい

周辺の人達が入ってきやすい環境施設と安全面

<保育室以外の部屋について>

来客時に対応できる部屋があるといい（または、救急室にもなるような部屋）

職員トイレとロッカーの配置

<保育室について>

明るく清潔感のある保育所（保育室）

収納スペースがたくさんある

各保育室にトイレが欲しい

安全に過ごせる施設（滑りにくく、見やすい）

各クラスにクーラーが欲しい

各部屋に活動スペースが欲しい
（食事スペースの部屋の仕切り）

<玄関について>

広い玄関（登所時に混み合わないと思う）

玄関は上がりかまちがある方がよい

<間どいについて>

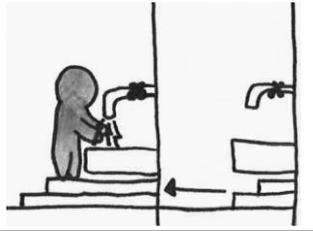
コーナーが作れる部屋（絵本コーナーなど）

絵本の部屋が欲しい

平屋

<水周りについて>

水場の足場の高さを階段の様に変えられるなら良い
（固定できるように）



水道は多めにとりつけて欲しい
（掃除の時や外部からの帰ってきた時などの際に洗うため）

<ホールについて>

クラスの仕切で多角的に使える部屋が欲しい

もっと広いホール

広いホール

大きなホールが欲しい

行事用の舞台（あまり高さのない）があるホール（いくつかの保育室と組み合わせることで会場となるような造り）

行事や異年齢交流会ができるようなホールがあって欲しい

<窓について>

少し長めの庇がほしい

各窓にロールカーテンがあると良い

室内が明るい

大きな窓があり保育室に自然の光が入るように

窓を大きくして欲しい

風通しが良く過ごしやすい施設

自然の風が通り、自然の中で生活し、自然が感じられる施設

風通し、日あたり、日陰を考えてつくる

第2グループ

その1：現保育所・幼稚園の良い点・問題点について

園庭に関すること	<園庭空間・遊具について>		
	固定遊具が欲しい		
	年少児も年長児も遊びこめる園庭の広さが欲しい	広々とした園庭で木陰もあると良い	
	木陰があり、遊具も充実し、広々と遊べると良い	木陰があり、広い園庭（死角がない）	
	0歳児も遊べるような小さな滑り台やテラスや広場のようなスペースが欲しい 年長や幼稚園児も走ったり、縄跳びができるような広場が欲しい		
	<園庭の自然環境について>		
	自然に囲まれ、園庭も広く、伸び伸びと遊べるような環境		
	木や緑がたくさんで虫もたくさんいる自然な園地	土山が欲しい	園庭の面積の大部分に芝が欲しい
	園庭には、子ども達が自然豊かな場所で遊べるような（体をいっぱい使って遊べるような）遊具が欲しい		
	いくらでも遊びの幅が広がったり、自然と体を動かす事のできる手作り遊具や赤土山が欲しい （遊びが生まれる園庭）		
送迎動線等に関すること	<トイレについて>		
	園庭からでも使いやすいトイレ	外用のトイレが欲しい	戸外にトイレが欲しい
	<駐車場について>		
	駐車スペースがある		
	職員・保護者の駐車場の完備		
	登降所時の駐車スペースの確保		
	職員用と保護者の送迎用の駐車場の確保		
	園舎から幼児が確認できるような駐車場が欲しい		
	安全に送迎できる渡り廊下のような園者と駐車場を結ぶスペースがあり、広々とした駐車場を確保して欲しい		
	<園バスについて>		
園バスがあれば安全に移動でき、遠足とか視野が広がると思う			
園バスがあると良い			

第2グループ

その1：現保育所・幼稚園の良い点・問題点について

教育・保育プログラム等

<施設設備について>

黒板が欲しい

<施設の雰囲気について>

保護者も楽しみにしながら通える施設

<関係施設との連携について>

小学校と連携が取りやすい環境（小学校が近くにある等）

就学（小1ギャップ解消）にむけ小学校との連携を年間計画に入れる

保護者が安心して子どもを預けられるような認定こども園や民営化の保育所（交流できる、保育の情報交換や質の向上など）

幼・保の職員が協力しあえる意見交換ができる時間が欲しい

今やっている保育士間（各園）の交流を続けたい（北山保育園も）

村内の子どもたちのために、保・幼・小が継続した連携が行える（学力、子どもの発達の保障 [読谷村]）

全施設の職員同士が交流できるスペースがあり、そこで落ち着いて、集中してミーティングし連携を取っていききたい

<人員体制について>

フリー保育士の確保（担任をもっていない保育士）	職員の確保	午前または午後の短時間保育士の配置
-------------------------	-------	-------------------

看護師が欲しい	用務員さんが欲しい
---------	-----------

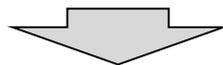
<保育の質について>

0～5歳児までの子ども発達を踏まえたプログラムで子ども達が伸び伸びと生活できるようにしたい

各年齢の発達を踏まえたカリキュラム
（プラス：0～5歳までの長い目で見た育ちを保障することで「今すぐできなくても卒園までに育ったね」と言えるような個々に合わせた保育）

養護をベースにした保育（心の育ちが最も大切）

家庭的な雰囲気の中で異年齢交流し、思いやりが育つようにしたい



【認定こども園のキャッチフレーズ】

自然がいっぱいで笑顔あふれる今帰仁っ子

(6) 課題の整理

1) 認定こども園整備に係る課題

①多様な交流を育み、発達段階に応じた活動が思い切りできる園舎・園庭の充実

認定こども園の整備により、0～5歳の異年齢児が同じ空間で過ごし、多様な活動を通して交流することで、お互いを思いやる気持ちを育むことが期待できる。また、隣接する小学校児童や、地域住民・高齢者等との交流が子ども達の健全な発達に寄与することが期待できる。

そのため、園舎・園庭の整備に際しては、多様な交流を育むものとして計画していく必要がある。一方で、年齢の異なる子ども達が、その発達段階に応じて思い切り活動できるよう、年齢ごとの緩やかな区分にも配慮しながら空間整備を行っていく必要がある。

②利便性や安全性に配慮した施設・設備の充実

認定こども園は子ども達が日中の多くの時間を過ごす施設となることから、施設・設備の高さ等について、子ども達の使い勝手に配慮していく必要がある。同時に、多くの子どもの安全に気を配る必要があることから、目が行き届くような空間整備を心がけていく必要がある。また、登園時等の動線や駐車場の配置についても、安全性や周辺交通への影響も考慮して計画していく必要がある。

③多様な保育サービスの実施と保・幼・小連携によるプログラムの充実

職員ワークショップにおいても、保育の質の確保については多くの意見が寄せられている。また、前年度に策定された「今帰仁村子ども・子育て支援事業計画」においては、新設する認定こども園において、地域子育て支援拠点事業（子育て支援センター）の実施をはじめとした多様な保育サービスの実施検討が位置づけられている。そのため、職員配置の充実を検討していくとともに、子育て支援センターの併設といった施設面での充実を図っていく必要がある。また、教育と保育を行う施設となる特色を活かした魅力あるプログラムづくりを行っていくと共に、隣接する小学校との連携も視野に入れた取り組みを推進していく必要がある。

2) 民設民営保育所の整備に係る課題

①保護者・地域への十分な説明の実施

公立・私立は運営形態が異なるものの、両者とも認可保育所は国の基準を満たしたものであり、県内他市町村においても多くの私立認可保育所が整備されており、独自で工夫を凝らしたプログラムが実施されているなど、魅力ある保育所も多くみられる。

保育所民営化について懸念する保護者も少なからずいるものと推察されるが、民営化にあたっては保育の質を担保できるよう配慮していくとともに、保護者や地域に対して丁寧な対話を重ねていくことが求められる。

②民間が参入しやすい条件整備の検討と、適切な事業者の選定

保育所民営化に伴い、本村でははじめて私立認可保育所が整備されることとなる。本村においては、女性の社会進出等に伴い保育需要は増加しているものの、少子化傾向も見受けられる。また、本島北部に位置する本村にあって、民間の参入意向は未知数と言える。そのため、保育の質の担保には十分留意しつつ、候補地に柔軟性を持たせるなど民間が参入しやすい条件についても一定程度検討していく必要がある。また、公募により広く希望事業者を募り、より適切な保育を実施することができる事業者を選定していくなど、保育の質の充実に向けて取り組んでいく必要がある。

